

西表島の手つかずの海洋ゴミ回収プロジェクト

報 告 書

2024年3月

一般財団法人西表財団



この事業は、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の支援を受けて実施しました。



1. 事業の概要

1.1 事業の目的

■短中期(1～3年)目的

手つかずのゴミを回収し、海洋環境の健全化をはかると同時に、地域住民の環境問題への意識向上を促す。また、対象地域は歴史的・文化的にも貴重な地域であり、その資源を活かして地域住民の学びの促進や、観光と連携した取り組みに発展させることによって継続した回収ができるような仕組みを検討することを目的とする。

■最終目的

西表島の海洋ゴミ問題にふれることにより、観光客の環境意識を向上させ、それぞれの暮らしや地域における環境保全活動に波及していくことを目的とする。

1.2 事業内容（計画）

1. 陸からアクセスできない海岸の定期的な清掃の仕組みづくり

(1)時期:2023年7月～2024年2月(4回)

(2)場所:沖縄県西表島西部海域(船浮、網取、崎山、鹿川)

(3)参加者:計80名

(4)内容:

- a. 船を活用した海洋ごみの回収・処理
- b. 海岸周辺の集落跡や古道などの史跡散策ツアー検討
- c. 観光と連携した海洋ごみ回収の仕組化検討

2. 海中・海底に滞留するごみの回収

(1)時期:2023年10月～2024年2月(3回)

(2)場所:沖縄県西表島西部海域

(3)参加者:計30名

(4)内容:

- a. 潜水作業による漁網や海底ごみの回収・処理
- b. 回収した海底ごみと漂着した海洋ごみとの比較展示

3. 海洋ごみの現状報告イベントの開催

(1)時期:2024年2月

(2)場所:沖縄県西表島・中野わいわいホール

(3)参加者:地域住民(50名)

(4)内容:

- a. 海洋ごみの現状と回収状況の報告
- b. 海の生き物に関するレクチャー
- c. 海の生き物を観察するフィールドワーク

4. 広報活動

- (1)時期:2023年5月~2024年4月
- (2)場所:オンライン
- (3)内容:ホームページやSNS等による活動報告

2. 実施報告

2.1 陸からアクセスできない海岸の定期的な清掃の仕組みづくり

2023年6月～2024年2月にかけて、西表島・白浜から西の陸からのアクセスができない海岸でのごみの回収を4回実施した。対象は、地域住民(2回)、地域の小中学生(1回)、観光客(1回)とし、それぞれ周辺の集落跡や古道などの文化・史跡散策とあわせて行った。これらの回収の実施の際に、今後、定期的に回収を行っていくための仕組みを検討した。

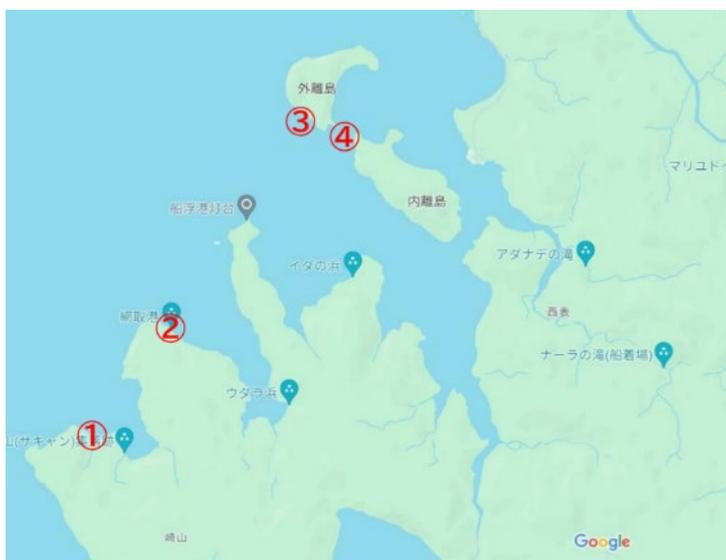
(1) 船を活用した海洋ごみの回収・処理

西表島・白浜港からチャーター船で、海洋ごみの漂着が多い海岸に行き、ごみを回収し、船で白浜港まで運搬した。その後、上原港までの陸路搬送、石垣までの海路搬送と石垣の処分場での処理を依頼した。

① 海洋ごみの回収・処理実施状況

回	実施日	実施場所	参加対象	参加人数
1	2023年6月12日(月)	崎山・イドゥマリ浜	地域住民	15人
2	2023年6月13日(火)	網取・アントゥリ浜	地域住民	7人
3	2024年2月23日(金・祝)	外離島	地域の小中学生・保護者	13人
4	2024年2月24日(土)	船浮湾(シラス浜)	観光客	8人

② ごみの回収実施場所



- ① 崎山イドゥマリ浜
- ② 網取 アントゥリ浜
- ③ 外離島
- ④ シラス浜

③ ごみの回収実施のようす



崎山・イドウマリ浜



網取・アントウリ浜



外離島



船浮湾・シラス浜



崎山・イドウマリ浜



網取・アントウリ浜

(2) 海岸周辺の集落跡や古道などの史跡散策ツアー検討

各回のごみの回収にあわせて、その周辺に存在する集落跡や古道などの文化・史跡散策を行った。普段立ち入ることができない場所もあり、ごみの回収というネガティブなイメージのある作業に、学びや楽しみの要素を付加し、プログラム化を検討する目的で実施した。

① 文化・史跡散策実施状況

回	実施日	実施場所
1	2023年6月12日(月)	崎山・旧集落
2	2023年6月13日(火)	網取・旧集落
3	2024年2月23日(金・祝)	船浮集落・イダの浜
4	2024年2月24日(土)	船浮集落・イダの浜

② 文化・史跡散策実施のようす



崎山・旧集落 (6/12)



網取・旧集落 (6/13)



船浮集落 (2/23)



船浮・イダの浜 (2/24)

〔参考〕ごみの回収と文化・史跡散策イベントのチラシ



西表島の手つかずの海洋ゴミ回収プロジェクト 崎山・網取ビーチクリーン

西表島西部の陸からアクセスできない海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっていて、人工物のほとんどない美しい景観を汚しています。放置されたごみには植物が根を張り、生態系への影響も心配されています。このエリアにはかつて集落があり、人々の暮らしの痕跡がひっそりと残されています。今回は、手つかずのごみのビーチクリーンと、集落跡を訪ねて歴史や文化にふれる時間を合わせた欲張りな1日プログラムです。ぜひご参加ください！

お礼財団より遊覧船からのイラスト委託

日時・場所

第1回 崎山 6月12日(月) 9:00~16:00
第2回 網取 6月13日(火) 9:00~16:00

※場所は、当日の天候・海況により変更になる場合があります
※多くの方にご参加いただくために、1人1回の参加に限らせていただきます

スケジュールと内容

9:00 白浜港発 …… 10:00 崎山/網取でビーチクリーン …… 12:00 昼食 ……
… 13:00 旧集落散策 …… 14:30 ごみ運搬 …… 16:00 白浜港で解散

募集対象：西表島にお住まいの方 定員：各回 20名 要申し込み

主催・申し込み
一般財団法人 西表財団
TEL 0980-84-7011
info@iriomote.or.jp




日本財団「海と日本 PROJECT」の助成を受けて実施します

島の小中学生対象



西表島の手つかずの海洋ゴミ回収プロジェクト 内離島(うちばなりじま)ビーチクリーン

西表島西部の陸からアクセスできない海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっていて、人工物のほとんどない美しい景観を汚しています。無人島の内離島もその一つです。放置されたごみには植物が根を張り、生態系への影響も心配されています。今回は、内離島の手つかずのごみのビーチクリーンをした後に、船浮集落を散策して歴史や文化にふれる欲張りなプログラムです。地域の子どもの参加をお待ちしています！

お礼財団より遊覧船からのイラスト委託

日時 2月23日(金・祝) 8:00~14:00
※白浜港に7:50までにご集合ください 雨天決行・荒天中止

スケジュールと内容

8:00 白浜港発 …… 8:30 内離島でビーチクリーン …… 11:00 船浮へ ……
… 昼食・集落散策 …… 13:00 ゴミ運搬・白浜港着 …… 14:00 白浜港で解散

当日の天候・海況によりビーチクリーンの場所が変更になることがあります

対象：西表島の小中学生とご家族や先生 定員：20名
※小学生未満のお子さんは参加いただけません

参加無料 お申し込みはコチラから
締切 2/22 12:00



主催・お問合せ
一般財団法人 西表財団
TEL 0980-84-7011 info@iriomote.or.jp




日本財団「海と日本 PROJECT」の助成を受けて実施します



西表島の手つかずの海洋ゴミ回収プロジェクト 船浮湾ビーチクリーン&集落散策 モニターツアー

西表島西部の陸からアクセスできない海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっていて、人工物のほとんどない美しい景観を汚しています。放置されたごみには植物が根を張り、生態系への影響も心配されています。このツアーでは、チャーター船で船浮湾に行き、手つかずのごみのビーチクリーンをした後に、船浮集落を散策して島の歴史や文化、暮らしにふれます。西表島の新たな一面を知り、島の環境保全にも貢献できるスペシャルなツアーです。みなさんご参加をお待ちしています！

お礼財団より遊覧船からのイラスト委託

日時 2月24日(土) 8:00~14:00
※西表島白浜港に7:50までにご集合ください 雨天決行・荒天中止

スケジュールと内容

8:00 白浜港発 …… 8:30 船浮湾でビーチクリーン …… 11:00 船浮へ ……
… 昼食・集落散策 …… 13:00 ゴミ運搬・白浜港着 …… 14:00 白浜港で解散

当日の天候・海況によりビーチクリーンの場所が変更になることがあります

対象・定員：西表島外にお住まいで健康で野外活動のできる方・20名

参加料：無料 (弁当希望者のみ実費800円)
※ツアーには島外から西表島白浜港までの移動費や宿泊費等は含まれません。参加者ご自身で手配をしてください。

お申し込みはコチラから 締切 2/22



主催・お問合せ
一般財団法人 西表財団
TEL 0980-84-7011 info@iriomote.or.jp




日本財団「海と日本 PROJECT」の助成を受けて実施します

2023年6月20日

西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト

崎山・網取ビーチクリーンを開催しました！

2023年6月12日(月)・13日(火)

西表島崎山(イドウマリ浜)・網取(アントウリ浜)

一般財団法人西表財団は、6月12日(月)・13日(火)に地域のみなさんと西表島白浜港からチャーター船に乗り、島の西部の陸からはアクセスすることができない海岸に行き、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト 崎山・網取ビーチクリーン」を開催いたしました。このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で開催するものです。

<開催概要>

島の西部の陸からはアクセスすることができない崎山と網取の海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっており、人工物のほとんどない美しい景観を汚すだけでなく、生態系への影響も心配されています。そこで今回、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト」の第一弾として、チャーター船で崎山・網取の海岸に赴き、海洋環境の健全化を目指して、地域のみなさんと手つかずのごみのビーチクリーンを行い、ビーチクリーン後には、このエリアに残るかつて人々が暮らしていた痕跡を訪ね、貴重な島の歴史・文化資源について学びました。

手つかずの海洋ごみを、船で回収

世界自然遺産に登録されている西表島は、そのほとんどが亜熱帯の森やマングローブの林で覆われており、島を一周する道路がないため、島の南西部の海岸へは陸からアクセスすることができず、そこに大量に流れ着く海洋ごみは手つかずのまま放置されてきました。

今回のイベントでは、船をチャーターして地域のみなさんと崎山のイドウマリ浜、網取のアントウリ浜に向かい、ビーチクリーンを行いました。島民でもなかなか上陸することができない浜のため、雨模様の中みなさん遠足気分で出発しましたが、浜の想像を超えるごみの量に一同唖然…。大きな発泡スチロールにはアダンが根を張り、手に取るプラスチックはポロポロと崩れ落ちる様から、放置されていた年月を感じました。参加者それぞれ黙々とごみに向き合い、協力して船に積み込み、2日間で回収したごみはトン袋で40個にもなりました。

先人たちの暮らしを垣間見る

ビーチクリーンを行った崎山・網取には、かつて集落があり、戦後まで人々が暮らしていました。ビーチクリーンの後に、集落跡を散策し、島の歴史や文化を学びました。以前はそこら中にあった田んぼの面影はなく、家々も朽ち果てていますが、家の石垣や赤瓦や御嶽が残されており、先人たちの暮らしを垣間見ることができました。石垣にはテーブルサンゴや、大きな貝がたくさん使われていて今よりずっと海の資源が豊かだったことがうかがえました。参加者からは「貴重な体験ができた」「厳しい自然の中を生き抜いてきた昔の人の知恵に学ぶことが多い」といった感想が聞かれました。

参加者からの声（学んだこと）

- ・作ってしまったプラスチックをどうするのか。
- ・海洋ごみ問題は自分が住んでいる場所で起こっていて、途方もない規模だということ。そして住んでいる人たちが協力してこの問題に取り組んでいること。
- ・マイクロプラスチックがどのように作られてしまうかなど、自分たちが気にかけていかなければならないことの大切さを学びました。

西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト
内離島（外離島）ビーチクリーンを開催しました！
2024年2月23日（金・祝）

一般財団法人西表財団は、2月23日（金・祝）に地域の小中学生やその保護者のみなさんと、西表島白浜港からチャーター船で陸からはアクセスすることができない海岸に行き、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト 内離島（外離島）ビーチクリーン」を開催いたしました。

このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました。

<開催概要>

島の西部の陸からはアクセスすることができない多くの海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっており、人工物のほとんどない美しい景観を汚すだけでなく、生態系への影響も心配されています。そこで今回、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト」の第三弾として、チャーター船で外離島の海岸に赴き、海洋環境の健全化を目指して、地域の小中学生とその保護者のみなさんと手つかずのごみのビーチクリーンを行い、ビーチクリーン後には、船浮集落を訪ね、貴重な島の歴史・文化資源について学びました。

手つかずの海洋ごみを、船で回収

世界自然遺産に登録されている西表島は、そのほとんどが亜熱帯の森やマングローブの林で覆われており、島を一周する道路がないため、島の南西部の海岸へは陸からアクセスすることができず、そこに大量に流れ着く海洋ごみは手つかずのまま放置されてきました。

今回のイベントでは、船をチャーターして地域の小中学生とその保護者のみなさんと外離島に向かい、ビーチクリーンを行いました。当初、予定していた内離島には当日の海況により行くことができず、外離島の海岸を目指しました。一見ごみが少ないように見える海岸に上陸し、あっという間にごみを取り切れるのではないかという参加者の予想に反して、海岸林の奥には風や高潮で入り込んだごみがたくさん！これまで誰にも気づかれずに何年もそこにあったと思われるまさに手つかずのごみを、背の低い子供たちが林に入り込んで、次々と投げ出していきました。浜では大人たちがその投げられたごみを分別し、自然にできたチームワークで手際よく回収が進みました。普段から地域や学校でもビーチクリーンをやっていることが、生かされていると感じました。時折細かい雨が降る中、子供たちの頑張りもあり、トン袋で7個のごみを回収しました。参加者は「きれいな海岸にごみがたくさんでびっくりした」「子どもたちが楽しそうにごみを拾っ

ていて頼もしかった」「あんまりごみがないと思ったのに、木の奥をのぞいたらたくさんあってびっくりした」といった感想が聞かれました。

船浮の歴史・文化・暮らしを知る

ビーチクリーンを終えた後は、西表島でも古い集落の一つ「船浮」に移動して、船浮出身の池田卓さんのガイドで集落を散策しました。集落の大切な御嶽や戦争の遺構、イリオモテヤマネコ発見・捕獲の地、船浮でしか見られない植物から児童・生徒3名の船浮小中学校まで、船浮の歴史、環境、文化、暮らしを知ることができる案内に、同じ西表島に暮らす子供も大人も学ぶことがたくさんありました。池田さんが子供の頃、人数の少ない学校でどうやってバスケットや野球が強くなったのかという話や、「何もない小さな集落でも頑張れば可能性はたくさんある。だからみんなも頑張ってください！」という言葉や、キラキラした目で聞いている子供たちの姿が印象的でした。

参加者からの声（学んだこと）

- ・このごみをどうしたらよいか。
- ・西表島の子供たちは、雨も波も気にせず、そんな環境も楽しんでいて頼もしい！
- ・自分たちも自然の一部だということを改めて感じた。
- ・無人島の浜にもごみがいっぱいあってびっくりした。
- ・船浮では、昔のことや、植物のことを知れてよかったです。
- ・友達には、船浮のクバディーサーのことを教えてください。また、取ったごみのことを教えてください。

西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト
船浮湾(シラス浜)ビーチクリーン&集落散策モニターツアーを
開催しました！
2024年2月24日(土)

一般財団法人西表財団は、2月24日(土)に島外からの来訪者のみなさんと、西表島白浜港からチャーター船で陸からはアクセスすることができない海岸に行き、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト 船浮湾(シラス浜)ビーチクリーン&集落散策モニターツアー」を開催いたしました。

このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました。

<開催概要>

島の西部の陸からはアクセスすることができない多くの海岸には、何年も手がつけられていない漂着ごみがたまっており、人工物のほとんどない美しい景観を汚すだけでなく、生態系への影響も心配されています。今回の「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト」の第四弾企画は、これまで実施した三回と同様に、陸からアクセスできない海岸のビーチクリーンを行いました。参加対象を島外からの来訪者とし、観光と連携した海洋ごみ回収の仕組みを検討するためのモニターツアー形式にしました。チャーター船で外離島と内離島をつなぐシラス浜に赴き、県外から集まった参加者らが、海洋環境の健全化を目指して手つかずのごみのビーチクリーンを行い、その後、船浮集落を訪ね貴重な島の歴史・文化資源について学びました。

手つかずの海洋ごみを、船で回収

世界自然遺産に登録されている西表島は、そのほとんどが亜熱帯の森やマングローブの林で覆われており、島を一周する道路がないため、島の南西部の海岸へは陸からアクセスすることができず、そこに大量に流れ着く海洋ごみは手つかずのまま放置されてきました。

今回のイベントでは、船をチャーターして島外からの来訪者のみなさんと外離島と内離島をつなぐ「シラス浜」に向かい、ビーチクリーンを行いました。参加者の多くは県外から初めて西表島を訪れ、自然豊かな美しい風景と対比する漂着ごみの多さに、驚きを隠せない様子でした。ごみの回収を始めると、初対面の参加者同士、自然とチームワークが生まれ、みな黙々とごみを回収します。あっという間に予定の1時間を過ぎましたが、誰も手を止めることなく夢中になってごみを拾い続けます。最終的に1時間半ごみを回収し、まだ取り切れないごみに心残りを感じなが

ら、ごみを船に積み込んで浜を去りました。回収したごみは、トン袋で8個となりました。参加者からは「ごみの多さに衝撃を受けた」「大変な作業だけどいやでなく楽しかった」「もっと拾いたかった」といった感想が聞かれました。

船浮の歴史・文化・暮らしを知る

ビーチクリーンを終えた後は、船で船浮集落に移動して、船浮出身の池田卓さんのガイドで集落を散策しました。船浮は西表島の中でも「陸の孤島」と呼ばれ、50人弱の人が暮らしています。10分もあればまわってしまう小さな集落を、大切に守られている御嶽や戦争の遺構、イリオモテヤマネコ発見・捕獲の地、船浮でしか見られない植物から児童・生徒3名の船浮小中学校まで、時間をかけて丁寧に案内していただきました。参加者は、一見何も無いように見える集落に詰まった歴史や自然、文化とそれらを大切にしている人々の思いにふれ、驚いたり感心したり。一般の観光ツアーでは体験できないスペシャルな時間を楽しまれていました。昼食後には、集落から小道を歩いて島内で屈指の美しさを誇る「イダの浜」へ。目前に広がる白い砂と船浮ブルーの海との美しいコントラストに魅了されて、裸足になって砂の感触を楽しんだり、貝拾いをしたり、ツアーの最後に穏やかな時間を過ごしました。遠くにはビーチクリーンをしたシラス浜も望め、「この景色は頑張ったご褒美だね」と、達成感いっぱいの笑顔でカメラに収まりました。

参加者からの声（学んだこと）

- ・大量のごみの現実とのギャップで悲しくなりました。
- ・参加者やスタッフの方々と一緒に体験を共有できたことがとても良かったです。
- ・どこから手をつけたらよいのか難しい問題ですが、想いのある人はたくさんいると思うので、できるだけ多くの心ある仲間を作って、一緒に行動していきたいと想います。
- ・海洋ごみの種類と量、その回収プロセスの大変さを身をもって実感した。
- ・ボランティアの力に頼らざるを得ない現状。
- ・運搬、処理費用の兼ね合いで取る量を制限しなくてはならない現状。
- ・これまで勉強したことや普段見聞きしていることと合わせて考えることで、より具体的に真剣に海洋ごみ、特にプラスチックのことを思えるようになりました。
- ・みんなで一緒にがんばったときの達成感がすばらしいと思った。旅先での参加で得がたい経験ができた。
- ・地元でも、できることから地道にやっていきたいし、まわりに海洋ごみ問題のことを話せたらと思う。

(3) 観光と連携した海洋ごみ回収の仕組化検討

観光と連携した海洋ごみ回収の仕組化を検討するために、(1)(2)の海洋ごみの回収と文化・史跡等散策ツアーを、観光客を対象としたモニターツアー形式で実施した。ツアー実施後に、参加者に対してアンケートを行い、結果をとりまとめた。それらを基にツアーの商品化の検討を行った。

① モニターツアーの行程

時間	内容
7:30	白浜港にて参加者受付
7:55	開会・主催者あいさつ 趣旨・スケジュール・注意事項説明
8:00	白浜港出港
8:20	24日・船浮湾シラス浜上陸 ビーチクリーン準備・回収方法説明
8:30	ビーチクリーン
10:00	ゴミの積み込み
10:45	船浮集落へ移動
11:00	船浮港着 昼食
11:30	船浮集落散策
12:45	船浮港発
13:00	白浜港着 ゴミ積み下ろし・分別・トン袋へ
14:00	閉会あいさつ 白浜港にて解散

② モニターツアー実施後のアンケート結果（一部抜粋） 回答件数5件

Q. このイベントに参加してどんなことを学びましたか？(回答4件)

実際に体験することで、ごみの多さと大きさ、重さに驚きました。綺麗な海やマングローブの林、島々の遠景に感動するほど、大量のゴミの現実とのギャップで悲しくなりました。良かったことは、普段は行けない場所に行けたこと、雨が降っていたけどそのおかげで虹が見えたし、作業中は雨が止んで快適な気候でできたことです。また、参加者やスタッフの方々と一緒に体験を共有できたことがとても良かったです。徳岡さんの「海はすべてつながっている」、池田卓さんの「海の神様が風を吹かせて陸に集めてくれている」という言葉が心に残りました。

湘南海岸に住んでいると、週末や連休になると都会から来た観光客がゴミをたくさん捨てて帰って行き、たくさんの方が海を楽しんでくれることは嬉しいものの、捨て方がひどすぎて、海のこと、住民のことも蔑ろにされている気がしてしまいます。西表島での体験は、それとはスケールの違う話ですが、普段から自然とは遠く切り離れた生活をしていると、ゴミだらけの自然を見ても、自分ごとのように思えなくなるんだろうと思います。

<p>全部がつながっていて、どこから手をつけたらよいのか難しい問題ですが、想いのある人はたくさんいると思うので、できるだけ多くの心ある仲間を作って、一緒に行動していきたいと想います。こんなに大変なことを日頃からやって、海を守ってくださっている島の方々に感謝します。貴重な連休中の時間を使い、色々と準備をして、体験する機会を作っていただきありがとうございました。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・海洋ゴミの種類と量、その回収プロセスの大変さを身をもって実感 ・ボランティアの力に頼らざるを得ない現状 ・運搬、処理費用の兼ね合いで取る量を制限しなくてはならない現状 ・回収を一つの大きな流れに乗せなくてはならない中でビーチクリーン実施のハードルの高さ ・リサイクルのモデルがまだ構築中、またその分別のリソース確保の難しさによって、石垣島へ運搬し廃棄しなくてはならない現状
<p>以前から知識としては見聞きしていた海洋ゴミの量を自分の目で見ること、ひどさを身をもって知ることができました。また、地元(横浜市)で参加したワークショップなどで勉強したことや普段見聞きしていることと合わせて考えることで、より具体的に真剣に海洋ゴミ、特にプラスチックのことを考えるようになりました。それと、イベント内容と直接関係はないかもしれませんが、みんなで一緒にがんばったときの達成感ってすばらしいなと思いました。旅先での参加で、えがたい経験ができ、よかったです。地元でも、できることから地道にやっていきたいし、まわりに海洋ゴミ問題のことを話せたらいいなと思います。</p>
<p>海洋ゴミがあまりに多くて驚いた</p>

Q. このイベントにまた参加したいと思いますか？(回答5件)

参加したいと思う(5件)

Q. あなたが思うこのイベントの価値を金額でお答えください。(回答5件)

Q. そのように答えた理由を教えてください。(回答4件)

501円～1,000円	
5,001円～10,000円	<p>飛行機代や宿泊代をかけて、休みをとって訪問する観光客には、他の1日のトレッキングなどのアクティビティ(カヤック+トレッキングの一日のツアーで1万3千円でした)より高額だと参加を躊躇するかと思い、この金額設定にしました。一方で、目的を決めずに長期滞在する観光客も多いようなので、地元の人との交流や、普段行けない場所に行けるといふ付加価値が出せれば、高額でも参加者はいると思います。</p> <p>お金の無い学生さんでも参加できるように、ごみ処理にかかる費用や、今後の活動のための資金という別枠でお金を出せるような、例えば記念品付きオプションがあると良いと思いました。ふるさと納税も絡められそうです。海外の事例ですが、再生プラを使ったブレスレットなどを販売したり参加証明として渡すなど、都会に帰ってからも身につけられて、思い出として残るものがあったり、人に体験を話したりするうえでの良いツールがあれば、お金を出すハードルが低くなったり、仲間を増やすのに有効そうです。芸能人に身に着け</p>

	<p>てもらおう仕込みができれば、結構高い値段設定のほうが人気になるかもしれません。</p>
5,001 円～10,000 円	<p>個人では行けない場所に行く体験、船浮でのガイドツアー体験、個人ではできないレベルでのビーチクリーンの活動に参加できる体験を合わせたときの価値としてそう感じました。</p> <p>ただ一方で、限られた日数の旅行の中で半日以上の時間を割いてイベントに参加することを価値と感じてくれる方はもちろんいるものの、限られてしまうのではないかと感じました。</p> <p>ビーチに寄ったついでに実施ができるワンバグビーチクリーンや、さらにハードルが低く参加できるもの、そして簡易な形で回収することができるプロセスが実現できると良いなと感じました。</p>
5,001 円～10,000 円	<p>本来なら移動にかかる費用や昼食代など、いわば旅費みたいなものだと考えるとこれくらいかな？と思いますが、正直、プライスレスかなと思います。普段、都会で暮らしていると、良し悪しはともかく、経験できないことばかりだったので、海洋ゴミのこと、船浮のような集落のこと、戦争のこと、開発のこと、いろいろもっと知りたいなと思えたのが自分にとってはとてもよかったです。フェリー(定期船)以外の船に乗るのも初めてで、貴重な機会でした。初対面のみんなで同じ目的でがんばるのも楽しかったですし、池田さんからおききした話も、本などでしか見聞きしたことないことを生でできて、本当に勉強になりました。どう考えてもプライスレスです。</p>
501 円～1,000 円	<p>離島でのゴミ処理費用がかかること、輸送にかかる船の燃料費もかかることなど、経費が少なからずかかるため</p>

③ ツアーの商品化に向けた検討と課題

参加者アンケートの結果から、海洋ごみの回収ツアーに対して感じている「価値」に個人差があることがわかった。ツアーを商品化する場合に想定される料金が、回収・処理費用を含めない(行政機関に依頼する)場合でも、1人あたり15,000円～23,000円となるため、観光客のニーズとマッチしにくいという課題が見えた。同じ内容での商品化は難しく、例えば船を使用しないでアクセスできる場所でのごみ回収という方法で、さらに内容を検討する必要性を感じた。

また、多様な価値観に応えるために、現在、西表島エコツーリズム協会が行っているガイド同伴の自然観光ツアーに500円上乗せしてごみ回収ができる「1バグビーチクリーン」などを参考に、価格帯の違うメニューをいくつか設定することが望ましいと考える。

価値の感じ方の個人差はあるものの、海洋ごみやプラスチックごみ問題に対する興味や意識は多くの人を持ち合わせており、課題をクリアできれば、商品化と継続した運用は可能だと思われるので、今後も引き続き検討していきたい。

2.2 海中・海底に滞留するごみの回収

2024年2月～3月にかけて、西表島周辺海域において海中・海底ごみの回収を3回実施した。実施に際しては、竹富町ダイビング組合の協力を得て、スクーバダイビングによる回収作業を行った。ごみの回収の実施後には、地域住民を対象とした報告イベントで、海中・海底ごみの現状と回収作業の様子を映像を用いて紹介した。

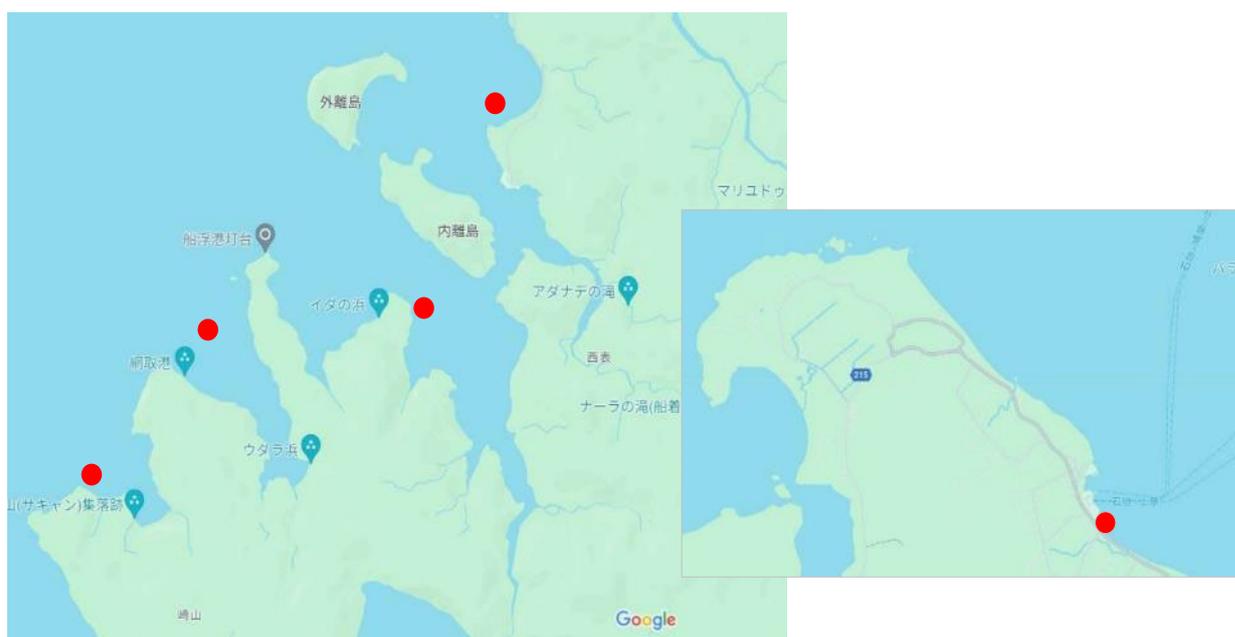
(1) 潜水作業による漁網や海底ごみの回収・処理

西表島西部の海域で、スクーバダイビングによる回収作業を3日間(1日3ダイブ、合計9ダイブ)実施した。回収したごみは上原港まで運び、石垣までの海路搬送と石垣の処分場での処理を依頼した。

① 海洋ごみの回収・処理実施状況

回	実施日	実施場所	参加人数
1	2024年2月28日(水)	①ヒナイビーチ前 ②ヒナイテトラ前 ③ヒナイビーチ前	8人
2	2024年2月29日(木)	①網取ハリケーンチャンプルー ②網取浅場 ③ミダラ浜前	6人
3	2024年3月25日(月)	①崎山 ②崎山 ③船浮港南	5人

② ごみの回収実施場所



③ 回収ごみ量の集計（種別・ポイント別）

実施日	2月28日			2月28日			2月28日			種別合計
ポイント名	ヒナイ ビーチ前	ヒナイ テトラ前	ヒナイ ビーチ前	網取 ハリケーン チャンブルー	網取 浅場	ミダラ浜 前	崎山	崎山	船浮港南	
種別	回収量（45L袋換算）									種別合計
ロープ、ネット	1	2	1	1	4	5	10	6	2	32
ブイ	3	2	1						1	7
ペットボトル	3	1	1	0.1					0.1	5.2
その他プラスチック類	1	1	1	1	0.1	0.1	0.1		3	7.3
ガラス製品			0.1						0.1	0.2
電球										0
缶類			0.1						0.2	0.3
その他金属類									1	1
布製品										0
ゴム製品									2	2
紙製品										0
合計	8	6	4.2	2.1	4.1	5.1	10.1	6	9.4	55

④ 海中・海底ごみの回収のようす



崎山・旧集落（6/12）



網取・旧集落（6/13）



船浮集落（2/23）



船浮集落（2/24）

2024年3月26日

西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト

海中ごみの回収を実施しました！

2024年2月28日(水)・29日(木)・3月26日(月) 西表島周辺海域

一般財団法人西表財団は、2月から3月にかけて3回にわたり、竹富町ダイビング組合に所属するプロダイバーのみなさんと、西表島周辺海域の海中・海底に滞留するごみの回収を行いました。

このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました。

<開催概要>

世界自然遺産に登録されている自然豊かな西表島の海岸には多くの漂着ごみが流れつき、美しい景観を汚すだけでなく、生態系への影響も心配されています。また、周辺の海域には、流れ着く前に沈んでしまったごみや漁業から出るごみが滞留していると思われそうですが、その実態はあまり把握されておらず、回収もほとんど行われていません。今回、「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト」の一環として、地元ダイビング組合に所属するプロダイバーのみなさんと、2月から3月にかけて3回にわたり、海中・海底ごみの回収を行いました。

海中・海底のごみをダイビングで回収

西表島の海岸には多くの漂着ごみが流れつき、どこにどれだけのごみがあるのか、その実態はあまり把握されていません。また、海岸に漂着するごみだけでも、回収予算や人員が不足している中で、行政機関には海中のごみの回収にまで手を付けられる余裕はありません。

今回は、竹富町ダイビング組合に所属し、普段は美しい海の世界を案内しているダイビングガイドのみなさんと、西表島周辺の崎山・網取・船浮・白浜周辺・上原港周辺で、海に潜って海中・海底ごみの回収を行いました。事前にごみのありそうな場所を聞き取り等でリサーチしたり、2年前に別の事業で行われた時の回収結果を頼りに回収ポイントを選定し、1日3ダイブ、1回のダイビング時間約50分、3日間で合計9ダイブし、海洋ごみの回収を行いました。全体的に多いのがサンゴや岩に絡まったロープや漁網で、これらをカマやハサミで切り取りながら回収しました。また、場所によっては海底に壊れたブイやペットボトルが沈んでおり、複雑な地形のポイントでは岩の間に挟まったプラスチックごみが見られ、これらも網に入れながら回収していきま

した。海中ではごみがかかなりの抵抗になり、一つ一つの作業に時間がかかることから、海岸での清掃活動ほど多くのごみを回収することはできませんでしたが、それでも3日間でトン袋3個分を回収することができました。

参加者からの声（学んだこと）

- ・ 普段のダイビングでは気づかなくても良く見るとごみが結構あることがわかった。
- ・ 海底のペットボトルなどのごみは、台風などで移動するため、どこに滞留しているのか予測がつかず難しい。以前に見られたところにはなかった。
- ・ 港の近くは、防波堤にあたって沈んだと思われるごみがとても多い。
- ・ 大変な作業だが、意義のあること。
- ・ 漁業者にも現状を知ってほしい。

2.3 海洋ごみの現状報告イベントの開催

2024年3月に、本事業で行った陸からアクセスできない海岸や、海中・海底のごみの回収について、その現状と共に地域住民に報告するためのイベントを開催した。イベントでは、報告の他にプラスチック削減をテーマにした映画の上映や、ごみゆんたく(座談会)をし、参加者同士で活発な意見交換を行った。

(1) 報告イベント実施概要

① イベント実施状況

イベント名	西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト報告会 「どうしよう？西表島のごみ いっしょに考えませんか？」
日時	2024年3月31日(日) 13:30~16:30
場所	西表島・離島振興総合センター
内容	・映画「マイクロプラスチックストーリー」上映 ・「西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト」スライドと映像による報告 ・ごみゆんたく
参加人数	9人

② イベントのようす



スライドと映像による報告



ごみゆんたく

2024年4月10日

西表島の手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト報告会
「どうしよう？西表島のごみ いっしょに考えませんか？」を
開催しました！

2024年3月31日(日) ・ 西表島・離島振興総合センター

一般財団法人西表財団は、3月31日(日)に西表島・離島振興総合センターで、地域のみなさんを対象に西表島手つかずの海洋ごみ回収プロジェクト報告会「どうしよう？西表島のごみ いっしょに考えませんか？」を開催しました。

このイベントは、日本財団が推進する海洋ごみ対策プロジェクト「海と日本プロジェクト・CHANGE FOR THE BLUE」の一環で実施しました。

<開催概要>

世界自然遺産に登録されている自然豊かな西表島の海岸には多くの漂着ごみが流れつき、美しい景観を汚すだけでなく、生態系への影響も心配されています。西表財団では2023年度「西表島の手つかずのごみ回収プロジェクト」として、陸からのアクセスが困難な海岸のごみの回収や、海中・海底ごみの回収に取り組んできました。今回、漂着ごみの現状をより多くの地域の方に知っていただき、解決に向けて1人1人が考えるきっかけにしたいと思い、映画上映やゆんたく(おはなし)の時間を盛り込んだプロジェクト報告会を開催しました。

報告会でごみについて考える

西表財団では2023年度「西表島の手つかずのごみ回収プロジェクト」として、多くの地域のみなさんと活動を行いました。その成果や人々がなかなか立ち入ることができない場所のごみの現状を、より多くの方に知っていただき、考えるきっかけをつくるために報告会「どうしよう？西表島のごみ いっしょに考えませんか？」を開催しました。

報告会は、映画「マイクロプラスチックストーリー」の上映から始まり、小さい子供から大人までが、マイクロプラスチックという大きな課題に明るく取り組むニューヨークの子供たちのドキュメンタリーに引きこまれました。続いて、船でしかアクセスできない海岸でのごみの回収や、ダイビングでの海中・海底ごみの回収の様子を写真や動画で紹介し、回収したごみの量などの報告をしました。長く放置され過ぎてまったく動かない海岸の発砲スチロールや、船いっぱいにごみを積んで運ぶ映像に、参加者からは驚きの声があがりました。また、海中でカメラを使ってロー

プを切って回収する様子や、海底にもプラスチックごみが沈んでいる様子に興味を持った参加者から、多くの質問があがりました。後半は、ごみゆんたく（おはなし）の時間で、参加者がごみの削減のために取り組んでみたいことをシェアしました。

参加者からの声（学んだこと）

- ・海中や自分の知らないところにもごみがたくさんあり、驚いた。
- ・映画を見て、行動することが大事だと感じた。子供たちの行動力を見習いたい。
- ・マイクロプラスチックの現状とその影響、それに対するアメリカの動向について知ることができた。また、自分の暮らしの中でできることを考えることができた。
- ・大きな課題だが、みなで共有できる場があることは大事。
- ・これからもこういう機会を持ち、多くの地域の方が参加してくれると、変わっていくと思う。

3. まとめと課題

本事業を実施する以前から海洋ごみ問題に取り組んでおり、回収に終わりがいいことは理解していたが、今回、これまで手つかずであった海岸や海中・海底ごみの回収を実施し、その量や回収の困難さを改めて感じた。

海岸に長期間放置された発泡スチロールにはアダンが根を生やし、それらを切りながらでないと回収できず、また表からは見えない海岸林の奥にも多くのごみが滞留していることがわかった。これらのごみを回収するための予算や人員が圧倒的に不足しているということが、まず大きな課題である。本事業の結果を関係行政機関と共有し、継続的に予算が確保できるよう働きかけたい。

根本的な問題として、ごみの処理について、現状で輸送後に埋め立てという方法しか取られていないことは大きな課題である。これについては、近年は様々な処理の技術が生まれてきており、民間企業の協力を得られる可能性もあることから、行政機関、民間企業との連携を深め、解決に向けて前進していきたい。

今回の事業で目指した観光との連携については、ごみの回収プログラムに対してどれだけの対価を払えるかという価値観の個人差が、非常に大きいことがわかった。観光客に対して少しでも取り組みを広め、啓発をしていくためには、ニーズに応じたいくつかのプログラムを整備することが必要と考える。今後も、地域住民や行政機関と連携しながら検討を続け、プログラムの構築、運用を目指したい。